

2020年10月7日  
穴吹エンタープライズ株式会社

## 三豊市栗島 スマートアイランド推進実証調査 「ル・ポール栗島」を発着起点とした GSM 運行の全般を担う

穴吹エンタープライズ株式会社(本社：香川県高松市、代表取締役社長：富岡徹也、以下、当社)は、2020年10月19日から始まる三豊市栗島でのスマートアイランド推進実証調査に、**指定管理者として管理運営する「ル・ポール栗島」を発着起点とした GSM (※1) 運行の全般を担う**事になりました。それにより低炭素型交通社会の確立と観光手段の多様化を目指し持続可能な島内モビリティの実証を三豊市・地域団体の皆様と連携して行います。

### ■ GSM発着起点としての具体的な取り組み内容

- ①島民の島内における移動ニーズの把握及び移動データの提供
- ②「ル・ポール栗島」利用者向けに提案する GSM によるレンタカー事業への布石作り
- ③ドライバー雇用による島内雇用への貢献



▲GSM 導入

### ■ 三豊市や島民との連携による SDGs No.17 (パートナーシップ) の実現

一般社団法人日本 SDGs 協会(本社：大阪府)が創設した「SDGs 事業認定」制度(※2)において**2020年2月21日に香川県初となる認定を取得**しました。

#### ・事業認定の項目として

SDGs No.17

II：パートナーシップを活かした社会価値向上の推進

- ⑰「パートナーシップで目標を達成しよう」を掲げており



目標ゴールである、「さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推奨する」取り組みは、まさに公共施設の担い手として、「パートナーシップを活かした地域社会への貢献」を重要な課題と認識し、地域社会が抱える課題解決の一助となり、共に成長していければと考えています。

#### ■ このリリースに関するお問い合わせは

穴吹エンタープライズ株式会社 公民連携 (PPP) 事業部  
三観広域連携部 井手 敏之 (いで としゆき)  
TEL.0875-56-5111 携帯.070-5342-9579  
E-mail : [t-ide@anabuki-enter.co.jp](mailto:t-ide@anabuki-enter.co.jp)

## ■添付資料 三豊市リリース

(※1) GSM (Green Slow Mobility) 導入による低炭素型交通社会の確立と観光手段の多様化

(※2) SDGs 事業認定とは

(一般社団法人日本SDGs協会HP : <http://www.japansdgs.net/>)

「SDGs 事業認定」は一般社団法人日本SDGs協会（本社：大阪府）が2019年6月に創設した制度です。これまで、各企業・団体がSDGsに取り組む際に明確な指針等がないために、取り組みに対する信頼性や不安が同協会に多数寄せられ、民間の第三者として「SDGs 事業認定」を開始しました。

## ル・ポール栗島

住所：香川県三豊市詫間町栗島 1418 番地 2



### 【ル・ポール栗島】



出典：「電子国土 Web」(国土地理院)

(<https://maps.gsi.go.jp/#5/41.040251/149.206421/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>) をもとに穴吹エンタープライズ株式会社作成

## ■穴吹エンタープライズ株式会社 (<https://www.anabuki-enter.jp/>)

設立：1987年7月22日 資本金：4,000万円 従業員数：約800名

本社：香川県高松市

ホテル事業を中核としてスポーツ健康増進事業、サービスエリア事業、指定管理者施設を運営

## ■公民連携 (PPP) 事業部 (<http://www.anabuki-enter.jp/division/public.html>)

7施設の公共施設マネジメントと4か所の受託事業で構成

### ■指定管理者施設

サンメッセ香川・香川県民ホール・香川県総合運動公園・三豊市文化会館マリノウェーブ  
観音寺市民会館・美馬市地域交流センターミライズ・三豊市栗島海洋記念公園

### ■学童保育事業

うらしまキッズ詫間、山本放課後児童クラブ

### ■福祉共済事業

ウェルばる高松

### ■産学連携事業

穴吹学園ホール



令和2年10月2日

三豊市

## 粟島でのスマートアイランド推進実証調査を行います ～離島に新技術を導入し、離島の課題解決を図るための実証調査を実施します～

概要は下記の通り

### 記

1. 事業概要
- ① グリーン・スロー・モビリティ（GSM）を活用した島内移動の確立
  - ② 新しい通信インフラによる輸送サービスの確立
  - ③ ICTによる新しい医療体制の確保

※内容詳細は別紙のとおり

なお、本事業は、令和2年度国土交通省が公募したスマートアイランド推進実証調査業務（三豊市）の採択を受け実施する。

2. 事業目的
- 今回の実証事業によって、「移動」・「医療」・「物流」という観点から、今後、持続可能な島内インフラを確立し、島民が豊かに暮らし続けられる環境づくりとともに、離島地域の活性化を目指す。

3. 実施主体
- 三豊市粟島スマートアイランド推進協議会  
(三豊市、穴吹エンタープライズ株式会社、三井物産オートモーティブ株式会社、株式会社電脳交通、ユビ電株式会社、株式会社かもめや、メロディ・インターナショナル株式会社、国立大学法人香川大学 瀬戸内圏研究センター、一般社団法人香川県医師会、香川県済生会 離島医療福祉研究会、国立大学法人香川大学 法学部 肥塚研究室、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社) (順不同)

4. 本件に関する問い合わせ先

三豊市政策部交通政策課 (担当：金藤) 電話 0875-73-3055 FAX 0875-73-3022



# プロジェクトの名称: 粟島スマートアイランド推進プロジェクト

団体名: 粟島スマートアイランド推進協議会【三豊市、穴吹エンタープライズ株式会社、三井物産オートモーティブ株式会社、株式会社電脳交通、ユビ電株式会社、株式会社かもめや、メロディ・インターナショナル株式会社、国立大学法人香川大学 瀬戸内圏研究センター、香川県医師会、離島医療福祉研究会、国立大学法人香川大学 法学部肥塚研究室、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社】

## ■ 事業の目的、目標、着眼点

粟島は、島内における公共交通手段がなく、自家用車を所有しない島民にとっては、徒歩や航路で島の中心地や診療所へと移動する不便な環境となっている。一方で、粟島は近年、瀬戸内国際芸術祭の開催や一般社団法人TARA JAPANとの連携協定など、「アート」「環境」をキーワードに地域の活性化が進んでいる島でもある。

今回の実証事業によって、「移動」「医療」「物流」という観点から、今後、持続可能な島内インフラを確立し、島民が豊かに暮らし続けられる環境づくりとともに、離島地域の活性化を目指す。

また、粟島は、少子高齢化や人口減少が進む三豊市の将来の縮図であるともいえる。本実証では、本市が目指す、多極分散型ネットワークのまちづくりや、Withコロナに表現される新しい生活様式に適したまちづくりに必要な生活インフラの実証を行うことも目的とする。

## ■ 具体的な取組内容

### 1. グリーン・スロー・モビリティ(GSM)を活用した島内移動の確立



島内中心地、診療所や集落などの停留所を設定し、島内移動の確保に向けGSMによる実証運行を行う。車載タブレットと連動するクラウド型予約・運行管理システムを導入し、管理工数軽減を図ると共に動態の可視化や人流データの把握を行う。

また、GSMの充電に使用する電力についてはGSM本体から充電量を把握し、香川県内で創出された環境価値を充電量に充当する事で、島の景観を保ち、最低限のコストで粟島にあった交通インフラの脱炭素化をバーチャルに実現する。



### 2. 新しい通信インフラによる輸送サービスの確立

無人移動体伝送システムにより、ドローンによる医薬品や食品等の無人物流輸送を行うことで、将来的な陸・海・空における無人航行に向けた実証実験を行う。なお、目視外飛行に必要な気象ライブソリューションによる自然災害時の情報提供も視野に入れ、離島に適した通信インフラを検証する。



### 3. ICTによる新しい医療体制の確保

診療所において医師不在の際、本土側にいる医師とオンラインで会話や診療を行い、服薬を含めたオンライン医療等、離島における遠隔医療システムを構築することで島民及び来訪者を含む医療体制の確立を目指す。